



「教育について工藤勇一先生に聞いてみた」工藤勇一監修より①

悩み1 子どもの主体性に任せていたら、ひたすら怠けませんか？

自分の行動や考え方を考える事故変容は、「あれ、このままでいいのか？」というメタ認知をすることがきっかけでおきます。第三者から「考え方をえなさい（勉強しなさい）」と言われて起きることはめったになく、むしろ反発心から余計意固地になるかもしれません。

自分で考え行動する自律した子どもに育てもらうには、自分を俯瞰的に見つめ、自分で考え行動するところまで体験してもらうことが欠かせません。それはテストで0点を取り、悔しく思うことかもしれませんし、ゲームのしすぎで朝寝坊して、周りに迷惑をかけたと自覚することかもしれません。

ここで周囲の大人が意識したいのは、「〇〇しなさい」と言いたい気持ちをぐっとこらえて、**その子が自己決定する機会をさりげなくつくること**です。

★メタ認知・・・自分を俯瞰的（物事、事態、自己、思考 等を広い範囲で全体的にとらえること）にみる力

悩み2 依存気味の子どもは思い切り突き放した方がいいんですか？

主体性を奪う子育てや教育をしたつもりなのでしたつもりはないのに正確な要因などからなかなか立ち立してくれない子どももいます。依存傾向の強い子どもです。子どもがそのような傾向にあるからといって急に子どもを突き放すような荒治療は避けた方がいいでしょう。むしろ逆効果になるかもしれません。

というのも依存は不安の裏返しでもあるからです。自分で挑戦したい気持ちはあるけれども、不安が上回って周囲の友人に甘えてしまう。それは性格的なものなので、大人が叱ることも、イライラすることでもありません。**そんな子どもに自立を促すには「失敗してもいいからね」と子どもの不安を取り除くことが何より大切**です。

なかには「自由にしろ」と言われた瞬間に一切後ろを顧みずに自分の道を突き進む子どももいますが、必ずしもみんながそうではありません。そうした配慮もなく、いきなり「自力で何とかしなさい」と放置されても子どもは余計不安になり、結局何もできずに自信だけ失う結果になりかねません。

だから私は、主体性を取り戻す作業をリハビリと呼んでいます。自分で決められない子どもには小さな選択肢を与えることから始め、少しずつ負担をかけ、その感覚に慣れると同時に自信をつけさせることが大切だと思っていますからです。

自律の速さも個性です。他人と比べるものではありません。その子にあったペースでリハビリを続けてください。

★自律・・・自ら考え、自分で判断して、自分で決定し、自ら行動できる力